

## 白浜の屏風岩（白浜町根本）

この地層は、しんせいだいちゅうしんせい新生代中新世（約 2500 万年～ 500 万年前）のもので、地質的にはちくらのいそうはたごそう千倉累層畑互層と呼ばれています。日本列島は、太平洋プレート、フィリピン海プレート、ユーラシアプレートがぶつかっているところで、太平洋プレートはユーラシアプレートに向けて1年に10cmくらいのスピードで押し寄せてきています。白浜の屏風岩は、その力によって大きく押し曲げられ、大きく波のようにうねった「しゅうきょくこうぞう褶曲構造」となった地層の一部です。現在見えている直立した地層は、褶曲構造が侵食され、直立した固い部分が残されたものです。泥岩と暗灰色の凝灰質砂岩が10cm前後の厚さで交互に堆積しており、よく観察すると、海岸から見て右下がりに傾いている部分と左下がりに傾いている部分があることがわかります。

<参考文献>『ふさの国の文化財総覧』第一巻  
安房・夷隅・長生 を一部改変

